



シリーズ よみがえるあのころ
～電話がみえる心の風景～

「盛岡の夏祭りを見守る鉄塔」

写真提供／電友会 岩手支部



目次

ごあいさつ

・ NTT 東日本 宮城事業部 岩手支店長	1
・ 支部長メッセージ 岩手支部長	2
NTT グループ東北だより	2
震災コーナー	4
東北地方本部だより	6

各地区電友会だより	8
会員リレーコーナー	69
会友コーナー 文芸・随想	75
でんでんみちのく川柳コーナー	81
NTT 東日本から退職者の皆さまへ	82
編集後記	83



ごあいさつ

東日本電信電話株式会社
宮城事業部 岩手支店長

星 伸 寿



東北電友会の皆様には、日頃よりNTT東日本グループの事業に対し、格別のご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

情報通信市場は、AI、ビッグデータ、IoT等の新たな技術の急速な進展により、様々なデジタルサービスの利用が進んでおります。今後は、それらのサービスを通じて蓄積されたデータの分析・活用により、人々の生活における利便性や各産業における生産性の向上等、幅広い分野において新たな価値の創造やサービスの提供が期待されています。

また、少子高齢化や労働力人口の減少、自然災害の増加、サイバー攻撃等の様々な社会的課題が顕在化する中、ICTを活用することにより、これらの課題を解決しSDGsに貢献していくことが求められています。

このような中、NTT東日本グループにおいては、NTT東日本グループ連結利益水準の維持・拡大を達成するとともに、増益基調を維持するための「増収転換」を目指し、事業の持続的な成長・発展へと繋げていくため、地域密着の強みを活かした、地域とともに歩むICTソリューション企業として地域社会・経済の活性化に貢献していくことを基本方針に、「変革の三本柱2.0」①情報通信事業のオーガニクな成長、②地域の活性化への貢献、③デジタルトランスフォーメーションの推進」の完遂に向け取り組んでいるところです。

また、NTT東北グループとしても、「変革の三本柱2.0」の実現に向け、IoTやAI等の技術を活用し、人口減少・少子高齢化による人手不足や企業におけるICT人材不足など、東北地域が抱える課題の解決に積極的に取り組んでいるところです。

特に、本年の「東京2020オリンピック・パラリンピック」に向けては、宮城・福島での開催も予定されていることから、安心・安全な通信サービスの提供により、NTTのブランド力向上へ貢献できるよう、NTT東日本グループ一丸となって取り組むこととしております。

岩手県は、広大な土地に古くから伝わる文化と豊かな自然がある素晴らしい土地柄であります。東日本大震災から8年が経過し復興の取り組みが続く中においては、人口減少と少子高齢化の急速な進行など、岩手県内の

社会、経済における様々な課題が顕在化しているところ

です。今後は、引き続き復興に取組み、一日も早い安全の確保、暮らしの再建、なりわいの再生を目指すとともに、東日本大震災津波の教訓を未来に向け伝承・発信していくことが求められているところです。

そして昨年は、国際的なイベントとして、ラグビーワールドカップが釜石市で開催され、多くの外国人が訪れ、地域振興の高まりが期待されているところです。

また、国際リニアコライダー(ILC)の国内建設候補地に北上山地が決定されており、今後は産業振興・技術革新・雇用創出・人材育成、地域振興などにおいて、大きな波及効果が期待されており、ILCを東北へ誘致することは東北全体の発展につながるものと思っております。NTT東北グループとしても、産学官民で構成された「東北ILC推進協議会」と連携を図り、東北への誘致に貢献していくことが求められていると認識しております。

このような中、私たちは、NTT東日本岩手グループが持つ強みを活かし、地域の通信インフラを守り、ICTを地域や企業に広げていくことにより、岩手の安心安全な暮らしを守り、社会や企業の課題解決に貢献していきたいと考えております。

具体的には、農業IoTの取組みとしてぶどう畑において、センサーによる温度・湿度等の環境データの活用、カメラによる果粒肥大データの活用などにより、作業を効率化しつつ、品質の安定したぶどうを生産し、そのノウハウを展開・継承するなど、様々なIoT活用の実現に向け取り組んでいるところです。

これからも、お客様の声・地域の課題に耳を傾け、共感し寄り添い、愛する東北・愛する岩手を支えていく存在でありたいと思っておりますので、東北電友会の皆様には、これまでと変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、東北電友会の益々のご発展、並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念しご挨拶とさせていただきます。

◎支部長メッセージ



岩手支部長

澤田 俊夫

元号が平成から令和に改まり、時代の変化に追いついていない自分を感じております。

百年前は、岩手県出身の原敬内閣が発足しラジオの実験放送やアメリカでダイヤル式電話機が出現した時代でした。

平成は、海部内閣や天安門事件で幕を開けNTTは民営化後3年経過し、電話局の名称も支店・営業所に変更され、子会社設立やライバル会社の出現など競争原理が導入され始めました。その後、電話交換機中心のネットワークからインターネットサービスを中心とした情報通信網にとって代わられました。

令和の時代に入り、米中貿易摩擦や地球温暖化による異常気象は日常化しつつあり、少子高齢化、過疎化による限界集落など一抹の社会不安を抱かせます。生命科学や先端医療の進歩による長寿命化、AIやビッグデータ活用による社会革新が期待される時代でもあります。

特にAIの進歩は、3年前囲碁AIが世界トップ棋士の韓国イ・セドル九段に4勝1敗

で勝利したとの報道がありました。囲碁は、碁盤が広く形成判断が難しく、変化も171桁となりコンピュータの計算能力を超えていました。最近では、人間の思考プロセスを参考に「先を読み想定図を作る」「その想定図を判断する」方法を取り入れた結果、この手を打つと勝利確率が何%と判断出来る方法（モンテカルロ・ツリー・サーチ）を採用し、飛躍的に棋力を向上させ人間を凌ぐ時代になっています。

AIが我々の生活習慣、投薬、病歴等々から余命を判断するなど、間もなくあらゆる分野に浸透する時代が来るかも知れません。

令和時代の岩手の自慢は、若手スポーツ選手の大活躍ではないでしょうか。MLBの大谷翔平や菊池雄星、大船渡高校の佐々木朗希投手が令和の怪物として活躍が期待されています。スキージャンプの小林陵侑が日本人で初めてワールドチャンピオンになり、岩手の若者の未来は明るく輝いて見えます。

東日本大震災からまもなく9年を迎えようとしていますが、電友会岩手支部としても若手の活躍に刺激を受け、令和の時代に相応しい中長期的視野に立った明るい会のあり方を模索し、支部会員の親睦と福祉の向上に貢献して行きたいと考えております。

◆NTTグループ東北だより

◎台風19号への対応

「ONE TEAM TOHOKU」として

昨年10月に伊豆半島に上陸した台風19号は東北管内でも福島、宮城、岩手に甚大な被害をもたらしました。

特に被害の大きかった宮城、福島では、一部の通信ビルの停電や水没により、サービス提供に影響が及びましたが、NTTグループ全体の社員が迅速かつ全力で取り組みました。結果、丸森ビル（宮城）は10月14日に、水没



福島小国ビルエリア

した浅川ビル（福島）は発災から4日後の17日にサービス回復、また本宮ビル（福島）も一時機能を停止しましたが懸命な装置の取替え作業により設備復旧に至りました。

現地では、加入ケーブルの復旧作業やお客様宅の故障修理が本格化する中で、故障修理の広域支援をいただきました。

「東京・北海道事業部」「秋田支店」が郡山LMCを拠点に、「岩手支店」が須賀川ビル、「山形支店」は福島LMC、「青森支店・秋田支店」の別班は苦竹ビルにそれぞれ拠点を設置し現地支援を行い、お客様宅の早期故障修理にご尽力をいただきました。



お困りごと（丸森）

法人班、マス班では、避難所における「特設公衆電話の開設」「災害時用公衆Free Wi-Fiの設置」他、被災者向けの通信に関する相談先として自治体と連携し「お困りごと受付窓口」を開設するなど、地域のお客様に寄り添った取り組みを積極的に展開しました。

また、停電により地域住民にガソリンが提供できないガソリンスタンドに移動電源車を接続し、電源を供給する取り組みも行い、燃料を必要としていた地域住民の皆様から感謝される場面もありました。

設備復旧・

故障修理のほかにも、丸森町の復旧支援として、災害ボランティアを募集し、10月29日と30日の2日間で総勢約50名が参加、現地では、3グループに分かれて被災者宅の家財整



丸森ボランティア

理や泥かき作業など力仕事を懸命に行いました。

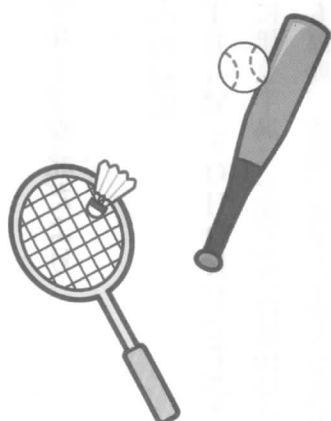
東北グループ一丸となって「ONETE AMTOHOKU」のスローガンのもと、地域のお客様の声に寄り添った活動を行いました。

◎スポーツクラブ後援会からのお礼

日頃よりNTTグループ東北スポーツクラブ後援会の活動にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

また、今年度の後援会会員募集に際しては多くのOB・OGの皆様にご賛同頂き、過去最大の会員登録を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

東北マークス各クラブ（ベースボール・バドミントン）の選手・チームスタッフも、皆様方からの物心両面にわたる強く温かいご支援に一同心より感謝しております。



した浅川ビル（福島）は発災から4日後の17日にサービス回復、また本宮ビル（福島）も一時機能を停止しましたが懸命な装置の取替え作業により設備復旧に至りました。

現地では、加入ケーブルの復旧作業やお客様宅の故障修理が本格化する中で、故障修理の広域支援をいただきました。

「東京・北海道事業部」「秋田支店」が郡山LMCを拠点に、「岩手支店」が須賀川ビル、「山形支店」は福島LMC、「青森支店・秋田支店」の別班は苦竹ビルにそれぞれ拠点を設置し現地支援を行い、お客様宅の早期故障修理にご尽力をいただきました。



お困りごと（丸森）

法人班、マス班では、避難所における「特設公衆電話の開設」「災害時用公衆Free WiFiの設置」他、被災者向けの通信に関する相談先として自治体と連携し「お困りごと受付窓口」を開設するなど、地域のお客様に寄り添った取り組みを積極的に展開しました。

また、停電により地域住民にガソリンが提供できないガソリンスタンドに移動電源車を接続し、電源を供給する取り組みも行い、燃料を必要としていた地域住民の皆様から感謝される場面もありました。

設備復旧・

故障修理のほかにも、丸森町の復旧支援として、災害ボランティアを募集し、10月29日と30日の2日間で総勢約50名が参加、現地では、3グループに分かれて被災者宅の家財整



丸森ボランティア

理や泥かき作業など力仕事を懸命に行いました。

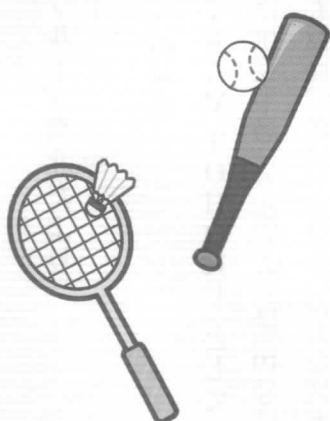
東北グループ一丸となって「ONETE AMTOHOKU」のスローガンのもと、地域のお客様の声に寄り添った活動を行いました。

◎スポーツクラブ後援会からのお礼

日頃よりNTTグループ東北スポーツクラブ後援会の活動にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

また、今年度の後援会会員募集に際しては多くのOB・OGの皆様にご賛同頂き、過去最大の会員登録を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

東北マークス各クラブ（ベースボール・バドミントン）の選手・チームスタッフも、皆様方からの物心両面にわたる強く温かいご支援に一同心より感謝しております。



震災コーナー

— 忘れない。忘れてはいけない —



◎東日本大震災の犠牲者を供養

電電相馬クラブ 鈴木 栄

2011年の震災を受け住宅は全滅・犠牲者も出て悲惨な状況でした。

復旧するにも今後の地震と津波を考慮し、これまでの場所に住宅を建てる事が出来なく土地確保からです。

そこで早い復旧復興を目的に漁業中心の原釜・松川浦(相馬市の東部地区)の被災者で「東部再起の会」を発足。相馬市が行う復興住宅の実現に協力、早い実現が出来ました。

私は東部地区では無いのですが、小中学校の同級生の大半が被災を受け犠牲者もいる事から参加することになりました。同時に犠牲者供養のため、「東部再起の会」を中心にして「東日本佛故者慰霊流灯会」を組織し毎年

お盆の時期に灯籠流しを行っております。

昨年(9回目)も8月31日、企業・旅館・商店・船主・個人からの寄付で費用を賄い、20数名のお坊さんが県内・埼玉・東京より集まって頂き、お経と千響太鼓・灯籠流しで供養を行いました。

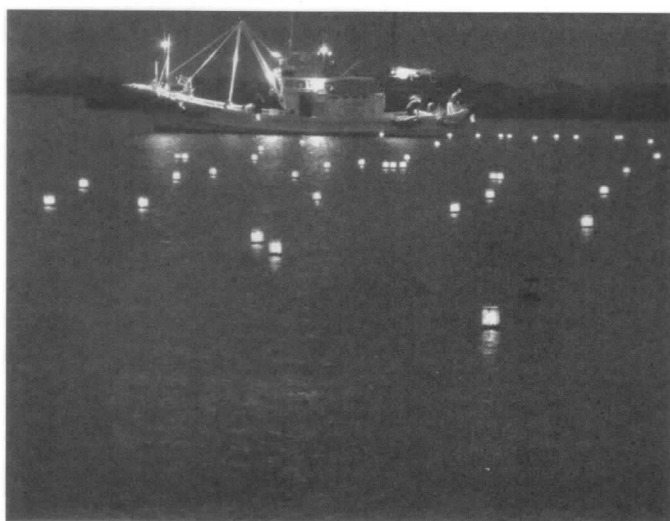
今年の10回目を区切りになりました。皆さんも今年、先祖代々の供養に来て頂ければと思います。



犠牲者供養法要



お経と千響太鼓



灯籠流し



慰霊灯籠

◎復興地蔵を作る

―感謝の気持ちと共に―

気仙沼クラブ 佐藤 京子

2011年3月11日、生涯忘れられない出来事です。東日本大震災は本当に言葉に言い表せない大災害でした。5ヶ月間、息子の所に身を寄せ、そして南方の仮設住宅で5年と5ヵ月、それから南三陸町に帰ってきて3年と6ヵ月になります。あの津波で全てを失いうちのめされました。でも、このままではいけないと言う気持ちにしていたいたのも全国の皆さんからの心温まる支援のお陰でした。失った物以上の人の温かい心遣いに、私の気持ちは奮い立ちました。仮設住宅の高齢者の皆さんに呼びかけ、復興地蔵作りを思い立ち作成し始めました。お陰様で3千セット超のお地藏さんを皆さんにお届け出来ました。このことで、私達が生きてゆく事の力と術をいただきました。今、私達は人として助け合い、励まし合って楽しく生きております。NTT労組の皆さまからも沢山のご支援をいただきました。この場をお借りして、はまゆり会、南三陸町民を代表して御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



今日と未来の間に。

皆様のさまざまなニーズにお応えします。
事務用品・什器・日用品 など各種取り扱いしております。
なんなりとお問い合わせください。



明日をつなぐベスト・パートナー

資材リンコム株式会社 東北支店

〒989-3124 仙台市青葉区上愛子字松原47番9
TEL 022 (302) 8100 FAX 022 (302) 8105

東北地方本部だより

東北地方本部事務局

◎支部長・事務局長会議の開催

元年7月18日、NTT五橋ビルにおいて開催。本部理事会及び評議員会模様について報告がありました。また、NTTグループ東北スポーツクラブ後援会への協力、ボランティア物品支援状況、会報85号の発行等について審議、決定しました。

◎第5回全国女性の会への参加

元年9月25日、26日、本部主催で東京TKP銀座ビジネスセンターにおいて開催。東北からは、小坂美知恵さん（地方本部）、渡辺比佐子さん（山形支部）が参加。各地方本部の活動紹介、「ドコモ・アグリガール」による講演会、看護師による健康講座等多彩なプログラムの



全国女性の会アグリガールの活動紹介

中で、相互研鑽と親睦を図ってきました。

◎震災復興支援ボランティア活動への参加

(1) 元年5月11日、気仙沼・大島での復興支援活動に、奥野本部長、小野寺前本部長始め宮城支部13名（五ッ橋6、石巻3、気仙沼4）、岩手支部（一関5名）の計18名が参加しました。本活動は、NTT（持株）CSR推進室、NTTファシリイティーズエンジニアリング主催の「緑の真珠 海岸林再生プロジェクト活動」として毎年実施されているもので、今回も震災の翌年に植樹した苗木の成長管理として下草刈を行ってきました。

(2) また、10月5日、同地区において本年度2回目の活動が実施されました。佐藤副本部長始め五ッ橋クラブ、石巻電友会、気仙沼クラブ、いちのせき電友会から13名の会員・家族が参加し下草刈、海岸清掃を行いました。

なお、これらの活動については電友会本部からも支援をいただいています。

(3) 東松島市海岸防災林再生活動への参加

元年6月15日、NTT東日本宮城事業部主催で「NTT東日本みやぎの森プロジェクト」として4年前から実施している同市矢本地区、浜市地区の植樹後の成長管理（下草刈）活動へ参加。奥野本部長始め五ッ橋クラブ（5名）、石巻電友会（6名）の会員計11名が参加しました。生憎の梅雨空となりましたが、今回も現役の皆さんと一緒に雑草と格闘してきました。

電友会では引き続き「チームNTT」として震災復興支援のボランティア活動に積極的に参加してまいります。参加の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、会員の皆様の更なるご参加をお願いします。

◎第29回電友会ボランティア活動賞受賞

元年11月20日、本部主催の表彰式が「KKRホテル東京」において行われました。東北の受賞者は次の方々です。

食用廃油回収プロジェクト

代表 末永秀昭さん（福島支部）

「地球温暖化防止と知的障害者支援

施設事業への支援の功績」

平成21年から「地球温暖化防止事業」として電友会はもとより現役社員、食堂、退職者の会等の協力をいただき取り組んできました。

回収廃油は、知的障害者施設「菊の里」へ運び同施設事業に役立ててもらっています。地域に根付いたボランティア活動そのものであり環境保護・社会福祉活動として評価されました。

久保ミキさん、新田秀子さん（岩手支部）

「長期にわたる視聴覚障害者への

ボランティア活動」の功績

30年もの永きに亘り拡大写本の活動等、視聴覚障害者への支援を継続してきました。

中でも、点訳製本した指圧試験用参考書は国家試験の合格に大いに貢献するなど長期に亘



受賞おめでとうございます 福島支部 末永秀昭さん（前列右から2人目）、
山形支部 後藤キヌ江さん（前列真ん中）、
岩手支部 新田秀子さん（前列左から2人目）

る地道な活動の重要性が高い評価を受けました。

後藤 キヌ江さん（山形支部）

「琴を通じた伝統文化継承活動への功績」

生田流箏曲の正師範として活躍する傍ら、永年に亘り寒河江市の小中学校での伝統文化継承教育や地域イベントへの出演等ボランティア活動を続け、地域の教育文化活動の振興に貢献されてきたことが評価されました。



NTT 特別顧問の
三浦惺様を囲んで

◎叙勲のご紹介

謹んでお祝い申し上げますと共に、益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

高齢者叙勲

（叙位・叙勲）（支部名）（ご氏名）

瑞宝双光章 宮 城 千葉 信雄様

瑞宝双光章 宮 城 兵庫 正志様

（令和元年7月～令和元年11月まで）

◎台風19号で被災された皆様に

お見舞い申し上げます

元年10月12日から13日にかけて東日本を通過した台風19号は全国各地に大きな爪痕を残しました。東北地方では、とりわけ岩手、宮城、福島の各県に甚大な被害をもたらしました。被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。

また、19号による通信設備の被害も大きくNTT東日本では通信設備の復旧に全社挙げて取り組みました。このため、例年10月23日に実施してきた「NTT・OB・OG交流会」は宮城、福島、岩手では中止のやむなきに至りました。毎年楽しみにしているイベントではありませんが、次回を楽しみにしたいと思っています。会員の皆様には、ご理解とご協力をいただきました事を感謝申し上げます。